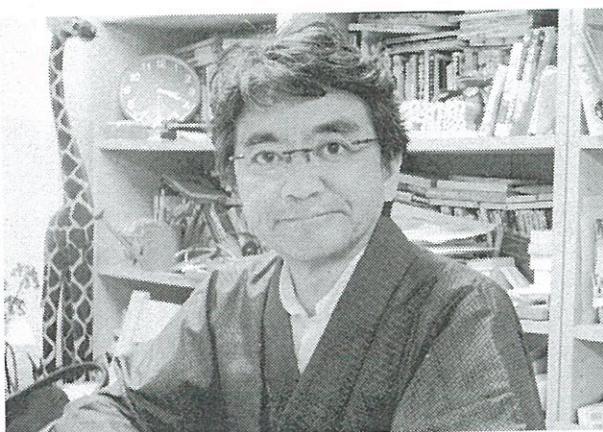


H24.10.22



慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科

中村伊知哉教授

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科  
中村伊知哉教授

導入するメリットは何か

教員が電子黒板などを使って指導する「指導者用デジタル教科書」の採用が進み始めた一方、子ども一人ひとりが学習に使う「学習者用デジタル教科書」は、その端末の普及や導入の是非を含めて、未だ検討段階にある。そこで、メディア政策に造詣が深く、デジタル教科書教材協議会副会長として政府への提言にも携わる

中村伊知哉氏(慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授)に、現在の「デジタル教科書」を取り巻く内外の動向や課題について聞いた。

## 子供のクリエイブさを生かす場の創出を

情報化のメリットには、創造、共有、効率の3つがあると考えます。言い替えると、楽しくて、つながって便利になること。

デジタル教科書を含め教育の情報化のメリットには、創造、共有、効率の3つがあると考えます。言い替えると、楽しくて、つながって便利になること。

地域の垣根をなくすことができることで、教室の中でも教え合った

生徒たちは、みんなでインターネットでつながる

アを活用することで自分でもそ

れらを作れること。共有は、みんな

が、実はそんな質問を投げかけ

てくるのは日本だけ。諸外国で

は、職場や家庭でデジタルメ

ディアを活用するという意味で、ほ

んでも大事な要素になると思

いました。加えて、小学校の授

業でもソーシャルネットワーク

を用いているのも関心を抱

きました。子どもの回答を教員

と共有するのに活用するほか、

企業との連絡にも利用

しているそうです。もっとも、こ

の取り組みは保護者からのクレ

ームなどの心配があったそうで

いいます。

ここに住んでいても世界中の先

方に、いまさらメリットにこだ

わる必要はないという認識で

返し学習に適していることや、

事務処理の省力化が図られるこ

とです。

どんな端末でも

使える教材を

次に、海外のデジタル教科書

の動向について。欧米やアジア

諸国でもいろいろな動きがあつ

て一概には言えませんが、進ん

でいると思うのは韓国。なぜな

に教育用に開発した端末を置き換えるので

いるところは韓国。なぜな

に教育用に開発した端末を置き換えるので

いるところは韓国。なぜ